

## 授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原誠

### 1. 授業の概要

本授業、スポーツマネジメント論はスポーツ健康科学課程の学生を対象とした授業である。スポーツ指導者養成コースについてはコース必修科目であり、スポーツキャリア開発コースについてはコース選択科目となる。登録学生数はスポーツ指導者養成コース18名、スポーツキャリア開発コース5名となっている。

授業の目的は、社会において実施されている多様なスポーツについて、その領域、およびその現状について認識を深めるとともに、そのマネジメントについて理解することである。社会スポーツの現状と国のスポーツ政策との関連や、地域における公共スポーツ施設、商業スポーツ施設など、社会スポーツのマネジメントについて理解することを目指している。

授業の到達目標としては(1)社会スポーツの現状を国のスポーツ政策と関連づけながら説明できる、(2)公共スポーツ施設の果たすべき役割や、そのマネジメントについて説明できる、(3)商業スポーツ施設、特にフィットネスクラブの発展経緯、現状、そのマネジメントについて説明できることをあげている。

ディプロマ・ポリシーについては、(1)充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を修得している(知識・理解)、(2)現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる(思考・判断)、に関連・対応するよう配慮している。

具体的な授業内容としては、スポーツマネジメントの概念について、これまで受講生が所属してきた運動部やスポーツクラブを例にとりながら、マネジメントを構成する諸要素について理解を深めるように配慮している。スポーツの領域は多岐にわたるため、そのマネジメントも、その領域により多様な要素が関わってくる。国や都道府県、市町村のスポ

ーツ振興施策について、平成23年に制定された「スポーツ基本法」や平成24年に策定された「スポーツ基本計画」に基づきながら、その実情等を分析している。

また、日本のスポーツ政策に多大な影響を及ぼしている欧州のスポーツ状況、総合型地域スポーツクラブの状況についてビデオ教材を使いながら学んでいる。さらに、国民のスポーツ実施に不可欠となるスポーツ施設について、公共スポーツ施設を取り上げ、その果たすべき役割や具体的な事業展開について学んでいる。その際、愛媛県にある愛媛県武道館や愛媛県総合運動公園、松山市コミュニティーセンター等を事例としてあげながら、受講生が関心をもつよう配慮している。これに加えて、近年、市場規模を拡大しているスポーツ産業、特に一般の人の利用が増加しているフィットネスクラブの発展経緯や現在の状況について、若干の考察を加えている。

授業の方法については、本授業が受講者にとって初めて学ぶ領域であり、専門的知識を修得してもらいたいという立場に立つことから、講義形式が主体となる。これに加えて、重要なテーマについての学習においては、小グループを作り、討論・発表という手法も取り入れている。

成績評価は、中間試験と期末試験の成績に基づいて行っている。試験の結果、授業内容の理解が不十分な者については追試験を行い、さらに理解を深めてもらうようにしている。

### 2. アンケート調査

授業の学部 DP との関連についてのアンケート調査は1月初旬に実施し、授業についてのアンケート調査は授業最終日に実施した。授業についてのアンケート調査では授業に対する受講生の取り組み状況、授業内容や理解の程度(授業内容、授業レベル、理解の程度等)、一番関心をもった授業内容、授業方法、授業環境、その他授業全般について尋ねてい

る。回答はすべて自由記述である。欠席者 4 名を除く 19 名から回答を得た。結果の概要を以下に示す。

## 1) 学部 DP との関連

学部 DP の知識・理解については「教育に対する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。」であり、「DP1A 教育に関する知識の修得」、「DP1B 得意分野の専門的知識の修得」となっており、「DP1B」が健康スポーツ課程の知識・理解についての DP「充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を修得している」に対応するものと考えられる。また、学部 DP の思考・判断については「教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。」であり、「DP2A 教育をめぐる現代的課題の理解」、「DP2B それへの適切な対応策のあり方についての思考力・判断力の修得」となっており、「DP2B」が健康スポーツ課程の思考・判断についての DP「現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる」に対応するものと考えられる。学部 DP との関連についての結果は以下の通りである。

④十分貢献した ③貢献した ②あまり貢献しなかった ①DPとは無関係であった 無：未記入

度数	計	DP1A					DP1B				
		④	③	②	①	(無)	④	③	②	①	(無)
課程	学校教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別支援教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合人間形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ健康	18	3	12	1	2	0	7	11	0	0
	芸術文化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

度数	計	DP2A					DP2B				
		④	③	②	①	(無)	④	③	②	①	(無)
課程	学校教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別支援教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合人間形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ健康	18	5	8	2	3	0	5	10	1	2
	芸術文化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

「DP1B」、「DP2B」では「③貢献した」および「④十分貢献した」と回答した者が多く、意図した成果がある程度確保されたものと思われる。

## 2) 授業に対する各自の取り組み

「スポーツクラブの現状やマネジメントについて学ぶのに積極的に取り組み欠席しなかつた」、「積極的に取り組めた。理解するのが楽しかった」、「ノートやプリントに細かく書き込みをして理解が深まるように努力した」という記述に見られるように熱心に授業に取り組む者が多い反面、中には「あまり聞けていない」、「出席はしたが集中力は欠けているときがあった」等、受講意欲にやや欠ける者もいた。全体としては良好な受講状況であるが、ごく一部の者が欠席を重ねるとい

う傾向がみられた。

## 3) 授業内容、授業レベル、理解の程度

「わかりやすい授業でとても興味がわいた。私にとってちょうどいいレベルだと感じた」、「授業内容は分かりやすかったので理解しやすかった。授業レベルは適当だった」等の記述も見られ、授業のレベルや内容は違和感なく受講生に受け入れられているように思われる。

## 4) 一番関心をもった授業内容

授業の概要のところでも示したように、本授業の内容は多岐にわたっており、受講生の関心も個人により異なり、多岐わたっている。「総合型地域スポーツクラブや国内外のスポーツの現状・取り組みについて」、「ヨーロッパのスポーツクラブについて」、「ゴールデンプランや第2の道について」、「スポーツ産業について」、「フィットネスクラブについて」等があげられている。今後もこれまでと同様に多様なスポーツ状況について取り上げていこうと思う。

## 5) 授業方法

授業方法については、「発表もあったし、グループワークもあって楽しかった」、「ビデオを見る授業が楽しくてよく理解できた」等の記述があった。講義形式だけでなく、多様な授業方法を取り入れていくことが必要だといえよう。

## 3. おわりに

今学期の授業について、授業時の受講生の状況を思い起こすとともに、学生からのアンケート調査の結果を含めて、今一度振り返り、授業内容の精選や授業レベルの設定、学生の理解を促進する授業方法等について考え、次年度の授業に臨みたい。